

## 会議録

会議の名称	平成24年度第2回行財政改革推進委員会
開催日時	平成24年7月25日（水曜日） 10時00分から11時30分まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	委員：横道委員長 吉田委員 岡田委員 鈴木委員 中村委員 米森委員 山田委員 上野委員 事務局：池田企画部長 森本企画政策課長 柴原財政課長 前田企画部主幹 高橋企画政策課主査 海老澤企画政策課主査 山田企画政策課主任
議題	1 「地域経営戦略プラン2010」の財政指標の見直しについて 2 「地域経営戦略プラン2010」の中間見直しプランについて 3 その他
会議資料の名称	No.1-1 「地域経営戦略プラン2010」における財政指標の平成23年度実績（暫定値）及び「地域経営戦略プラン2010」中間見直しにおける目標設定の変更について（案） No.1-2 都内類似団体における平成22年度経常収支比率と内訳 No.2-1 「地域経営戦略プラン2010」における新たな財政指標の設定について（案） No.2-2 「地域経営戦略プラン2010」における新たな財政指標に関する比較検討（案） No.3 「地域経営戦略プラン2010」中間見直しプラン（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><b>議題1 「地域経営戦略プラン2010」の財政指標の見直しについて</b></p> <p>○横道委員長： 議題1について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>○事務局： 資料1-1、1-2、2-1、2-2に沿って説明</p> <p>○横道委員長： ただいまの説明について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。</p> <p>○横道委員長： 市債現在高倍率について、実績として平成22年度が109.5パーセント、平成23年度が97.6パーセントにと12ポイント下がっていて、今回の中間見直しの目標設定は76.5パー</p>	

セントとなっているが、達成が見込める数値設定なのでしょうか。

○事務局：

市債現在高倍率は臨時財政対策債を含まない指標であることから、ここで言う市債の主なものは建設債であり、計画上での償還の推計値では目標達成は可能と考えております。

○吉田委員：

物件費の経常収支比率で、八王子市と西東京市に大きな差があるが要因は分かりませんか。

○事務局：

他市の分析までは出来ていないため、要因については不明です。本市の状況としては、平成22年度に下保谷児童センター、ひばりが丘児童センター、障害者総合支援センターなどを新たに建設したため、平成23年度以降、維持管理費や運営委託料等の物件費が増えています。

○横道委員長：

調布市、府中市は物件費の経常収支比率がさらに高いが、何か要因はあるのでしょうか。

○事務局：

そちらも要因については不明です。今後調査していきたいと考えております。

○横道委員長：

西東京市の平成22年度の経常収支比率の数値が特異だったとのことですが、その要因について説明をお願いします。

○事務局：

平成22年度の経常収支比率については、歳入として地方交付税と臨時財政対策債がそれぞれ十数億円ずつ増加されたことによる外的な要因によるものだったので、特殊要因と考えております。他団体を見ても、昨年度は交付団体より不交付団体の方が経常収支比率が良くなりました。ただし、依存財源による効果であって、平成23年度については、平成22年度と比較すると、公債費、人件費（退職者が多かったため）、物件費、扶助費等の歳出が増え、地方交付税及び臨時財政対策債を含む歳入の伸びが低かったため、経常収支比率の数値が上がったと思われま。

○鈴木委員：

平成21年度の経常収支比率はどうだったのでしょうか。

○事務局：

平成21年度は91.1パーセントでしたので、平成23年度90.8パーセントからすると、元に戻ったかたちになります。

○横道委員長：

新たな財政指標の追加について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。

○吉田委員：

今回新たに設定する指標については、設定されたほうが良いと思います。財政をコントロールしていくことは縮小の時代なので難しいと思いますが、今回提案されているようないくつかの指標等を設定し、管理していくことは必要だと思います。併せて、今後は市民一人当たりの歳入、歳出額での伸びを一致させるようなことも考える必要があると思います。

○横道委員長：

市債と臨時財政対策債の割合はどの程度ですか。

○事務局：

平成24年度予算では市債が約18億円、臨時財政対策債が約37億円で臨時財政対策債が中心となっています。公債費のピークは平成26年度で約70億円程度を予定しております。

○横道委員長：

この指標を設定すると、過去に発行した市債の公債費も影響すると思われるが、大丈夫ですか。

○事務局：

新たな借入れの可能性もあり、現在の財政フレームを超えない範囲で借入するようにするためにもこの指標を設定したいと考えております。設定する水準については現状を踏まえ検討していきます。

## 議題2 「地域経営戦略プラン2010」の中間見直しプラン（案）について

○横道委員長：

次に、議題2について、事務局から説明をお願いします。

○事務局：

資料3に沿って説明

○横道委員長：

ただいまの説明について、ご質問やご意見がありましたらお願いします。

鈴木委員：

保育園の民間委託や他の施設の指定管理者制度導入等が今後も進むと思われませんが、民間化についてどのように市民へ説明し、導入結果はどのようになっているのでしょうか。

○事務局：

参考に保育園で申しますと、すでに民間委託している保育園の父母等の意見を、新たに導入する保育園の説明会等で説明しており、中身では民間ならではの保育指導の特殊性や給食の内容の充実、設備の充実など良い感想をいただいております。

○米森委員：

受益者負担を求めるものがいくつかあるが、現在国会で審議されている消費税関係の法律が施行された場合、影響はどのように考えていますか。

○事務局：

消費税の値上げが実施された場合、一般的に考えれば地方自治体への配分として市の歳入は増えると思いますが、地方消費税の取り扱い等、歳入歳出の全体が見えないので影響については不明です。

○米森委員：

消費税値上げ時期に使用料等の値上げは、実施が難しいのではないのでしょうか。

○事務局：

社会状況も考慮しつつ、検討する必要があります。

○山田委員：

項目13番の省エネルギー対策の推進について、省エネ商品の導入となっておりますが、どのような物を導入されるのですか。

○事務局：

公共施設の白熱電球をLED電球に交換することなどを進めています。

○山田委員：

項目24番の有料広告掲載の検討では、市民が目にするものでどのようなものに導入されているのですか。

○事務局：

市ホームページや図書館ホームページのトップページにバナー広告を掲載しています。また、昨年全戸配布した「暮らしの便利帳」についても、市の支出はなく、各ページに広告を掲載する企業からの広告収入で作成及び配布を行っています。その他の広告媒体もあわせて10媒体で行っています。

○吉田委員：

全体を見ると、施設の統廃合についての項目が少なく、単純に受益者負担を求める内容にも感じられます。受益者負担を求めるなら、サービスの向上も併せて検討しないと市民は納得しないのではないのでしょうか。また、使用料を設定する際に原価計算や他自治体を参考にして算出していると思いますが、併せてサービス内容と提供の仕方等の議論も必要だと思います。

○事務局：

前回の委員会でもご意見いただいたとおり、社会保障関係費が増えていることも踏まえて、財源の確保が主となっています。

施設の統廃合については、公共施設の適正配置等に関する基本計画及び公共施設の適正配置等を推進するための実施計画で取り組んでおり、平成26年度までの目標数値としては1件しか掲載していないが、第4次行財政改革策定のときは、施設関係について取り組み項目を掲載したいと思っております。

### 議題3 その他について

横道委員長：

その他になりますが、事務局より各委員に2年間の感想等について一言いただきたいとのことです。お願いします。

米森委員：

委員になる前は、自分が興味ある事にしか注目しなかったが、この委員会に参加してからは、市政の色々な事に興味を持つようになりました。これからも義務的経費は増え、課題も多くありますが、より良いまちづくりができるよう引き続き行財政改革を進めていただきたいと思います。

山田委員：

みなさんが毎回熱心に審議されている姿に感心しました。これからの西東京市の行政改革は、例えばやっと完成した箱に、どんなふうに入れたかが大切だと思います。まわりの自治体と足並みを揃えるのではなく市独自のものを期待しています。

中村委員：

今までやっていたことを変えていかなければならない時代である。変えることは実際には大変なことだが、新たな発想で取り組むことが必要だと思います。引き続きがんばっていただきたい。

鈴木委員：

しわ寄せがどこに来るのか。市民か市職員の残業か、特定の人が負担せずすむように今後はサービス提供側も提供される側にも意識改革が必要だと思います。

岡田委員：

行政は様々な努力をしているが、市民にうまく伝えることができていないと思います。行政サービスの中で、いる、いないを判断をすることは難しいので、今後は優先順位を明確にして、市民に理解と協力をしてもらえるよう、伝えていくことが必要だと思います。

上野委員：

行政が苦勞している姿も見え勉強になりました。社会保障費などの課題については、手のつけやすいものから取り組むのではなく、根本的な部分の改善を図らないと問題の

解決にはつながらないのではと思いました。

○吉田委員：

これから数少ない職員で市政を運営していくには、今までの物の考え方を切り替えて、新たな方針を打ち出していく必要があると思います。

○横道委員長：

行財政改革では色々なことにチャレンジしている。上野委員が言うとおりの課題を解決するには根本を変えることが必要だが、実際には難しい課題である。吉田委員の話にもあったが、市はまだ縦割りの部分が多いので、横串を使って行政の大きな視点からの新たな仕組みづくりが必要だと思います。

○事務局：

副市長から委員へのお礼（企画部長代読）

○横道委員長：

それでは、本日の会議は終了します。

2年間ご苦労さまでした。